



東地中海地域ニュース

イスラエル：米海軍艦艇のハイファ港への寄港

(2月4日付現地紙)

2月4日、米海軍艦艇がイスラエル・ハイファ港に寄港した。なお同港への米海軍艦隊の寄港は、今後も継続するとされており、地中海域でのロシア艦隊の行動再開の動きと相俟って、地中海の支配を巡る米国とロシアの覇権競争の一部として注目に値する。

1. 4日、ハイファ港に停泊する米海軍のサン・ハシントは、タイコンデロガ級のイージス巡洋艦であり、最新型の対潜哨戒システムを保持する他、航空機やミサイルから艦隊を防御するため、ミサイル防衛システムを装備している。この艦艇は、イスラエルに対するイランによるミサイル攻撃が生起する場合には、中東地域に展開が可能である。なお停泊は5~6日になる見込み。

2. イスラエル国防省当局者は、イスラエルへの本艦艇の寄港を、イスラエル国防省・イスラエル海軍と米海軍との間の協力の一部であると述べた。イスラエル国防省のミサイル防衛機関は米国国防省に対し、2007年半ばにイスラエルのミサイル防衛システムと米国のイージスシステムとの間の協力のための演習を実施するように要請している。米国側は、前向きに回答し、イスラエルとの協力関係を進捗させることを約束したが、イスラエル国防当局は、今回の米艦艇の寄港理由についてはコメントを差し控えている。

<参考>

サン・ハシントは、過去8ヶ月でイスラエルに機構する2隻目の米海軍艦艇となるが、ロシアも17年ぶりに地中海に艦隊を派遣することを決めており、ハイファ港への米海軍艦艇の寄港は、地中海の支配を巡る米国とロシアの拡大しつつある覇権競争につながる恐れがある。イスラエルは、イタリア・ナポリにあるNATO基地に、情報関係の協力を得るため恒常的にイスラエル海軍要員を派遣することを表明している。